

「ともに生きる」対話講演会 東区

きょう一日を最善に生きる



講演する島しづ子さん(左)と外山憲治さん=東区の名古屋中央教会で

言いつ放し聞きつ放し必要

リハビリ施設創設者 外山憲治さん

障害者施設運営理事長 島しづ子さん

薬物などの依存症の民間リハビリ施設「名古屋ダルク」(北区長田町)の創設者の外山憲治さん(60)と障害者介護施設を運営するNPO法人「愛実の会」(港区木場町)の理事長の島しづ子さん(63)の対話講演会が16日、東区久屋町の名古屋中央教会であった。活動内容は異なるが、20年以上前に団体を立ち上げた2人が「ともに生きる」をテーマに話し合った。(石屋法道)

外山さんは一九八九年に名古屋ダルクを設立、島さんは八七年に学校を卒業した障害者の居場所づくりの活動を始めた。二人はともに県弁護士会の人権賞を受賞している。

二人の言葉に共通したのは「弱さをさらけ出すこと」。島さんは「リハビリに来た人が障害者と暮らした経験から「誰かと常に一緒にいると、相手に対する怒りを抑えられなくなると、相手に対しあるメンバーが中心の人形劇団「紙風船」による人形劇の上演もあり、参加者が楽しんで、対話講演会は、資金不足に悩む名古屋ダルクが活動を広く知ってもらいたいと開催した。

島さんは「施設では働いている方も大変。大事なことは自分が助けてもらう存在だと受け入れること」とも指摘した。外山さんは二十二年の活動を振り返り「リハビリに来た人が元気になることで、僕の方が支えられた」と話した。

る。言いつ放し聞きつ放しにしてみる試みが、すべての人に必要」と話した。外山さんは「きょう一日だけを最善に生きよう」とミーンティングに通い続けた」と薬物依存症から立ち直った体験を説明した。

た。